



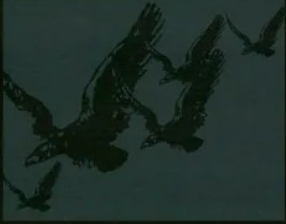
俳句ノ道

俳句ノ道

上卷下卷再録

無糖

上卷下卷再録



無糖

The book cover features a light gray background. In the upper left, several black silhouettes of birds are shown in flight. In the upper right, a crescent moon is depicted with a red and white striped pattern. In the lower left, there are black silhouettes of plants, including what appears to be a palm frond and some berries. In the lower right, there are concentric red and white stripes. The title '俳句ノ道' is written vertically in black calligraphy on the right side, and '無糖' is written vertically in black calligraphy in the bottom right corner.

俳句ノ道

無糖

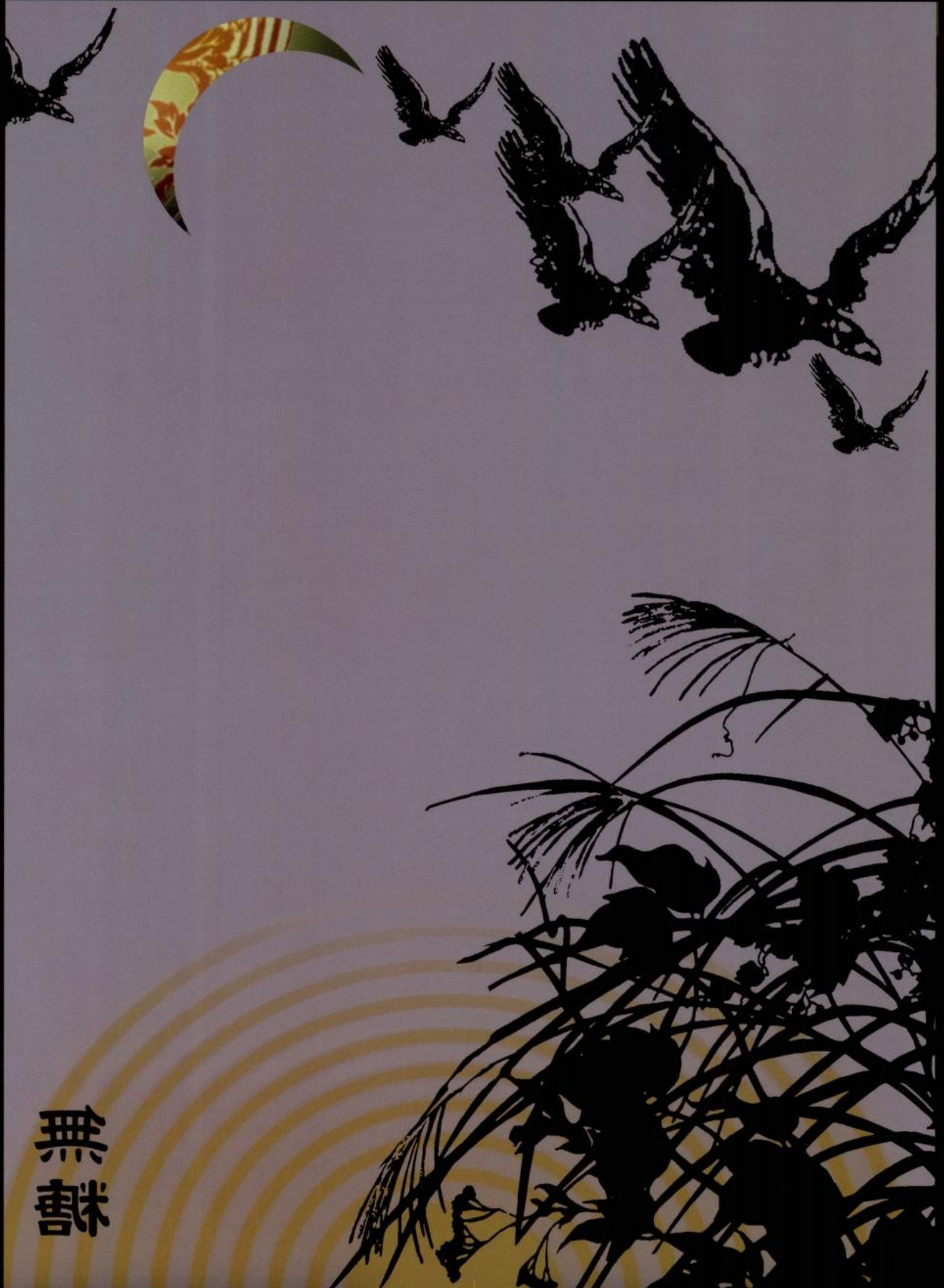


俳句道

上卷



御向道



無
事

俳句道



僕の前には道が有る



ズル
ズル

曾良君!

曾良君てば!
止まって!
止まって——!

…何ですか

いなかさじゆちち



芭蕉さん



芭蕉さんの皮事情は
どうでもいいです。
疲れてもう歩けないと
いうから引張って
やってくるっていつの
後ろからぎやーぎやー
うるさい…

もじや
やりや
あまごしやー？



良かったじゃ
ないですかその歳で
剥けてないほうが
あれですから

何だじゃないよ！
さつきから何度も
止まってつて叫んで
るのに！
私皮ずるむけだよ！

どこの皮の
事いつてんの！？
つづ私の息子は
前から二皮むけとる
わい！



おんぶとか
だつことかさー



こんなモノみたいなの
運び方じゃなくて…

やりや？

おんぶや
だつこですか…

そつだよ！
あ、でもそのまま
一本背負いにもつて
いくのはなしね！

…分かりました

やつて
あげます

ですが目の前に
水たまりや川や
底なし沼などが
合った場合は
どうなるか
わかつてますね

悲惨な
メモリアルが
バックに！
ごめんなさい！
結構です！

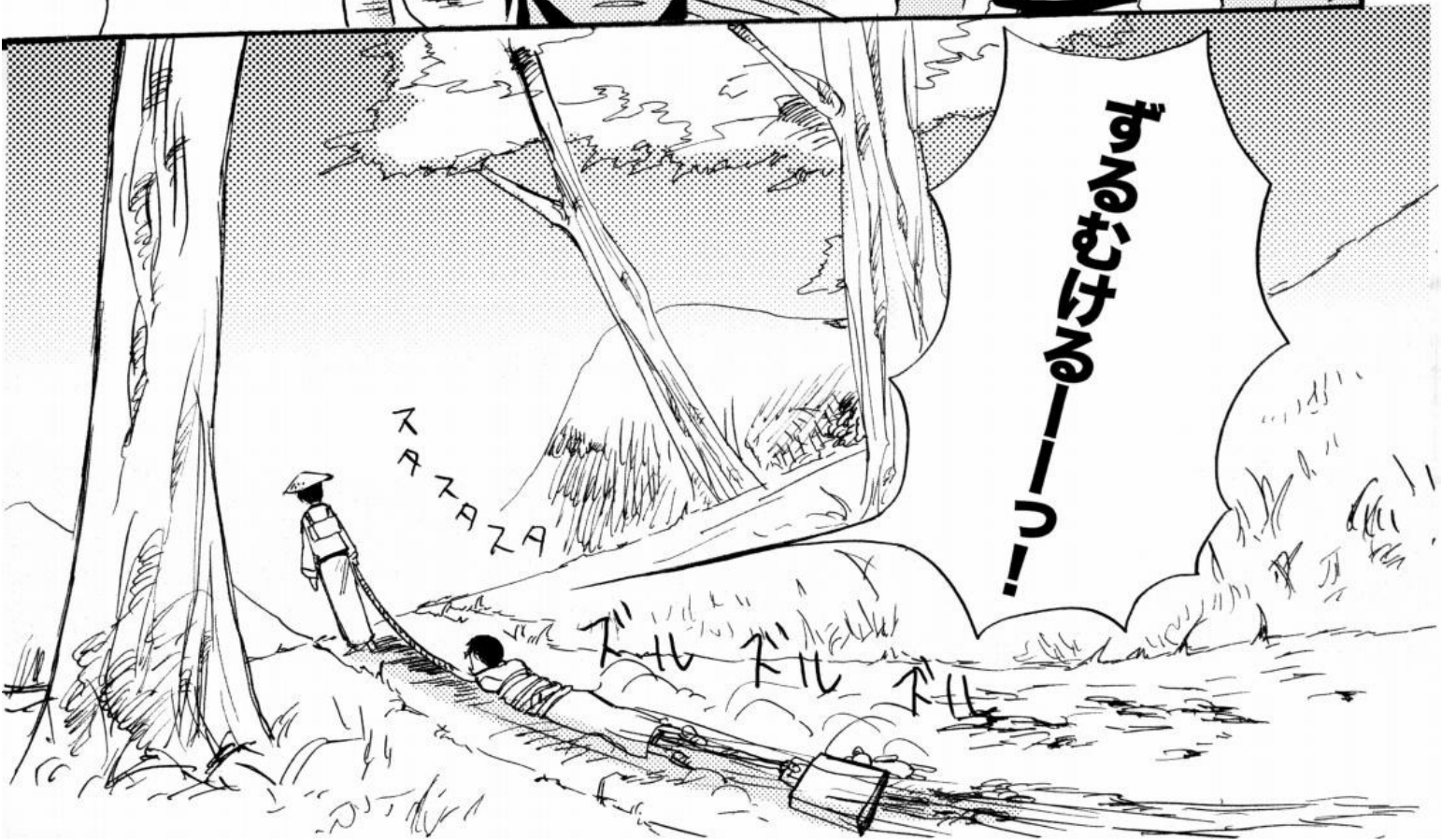
分かれば
良いです
それじゃあ
急ぎましようか

えー？
ちよ！
縄ほび…

トナリトナリ

スアズアズ

ズルズルズル





すみません
お茶をもう
一杯お願いします。



僕に引っ張らせて
楽をしておいて
回子を欲しがるなんて…
申しいですよ芭蕉さん

あれが楽と
いうのなら
市中引き回しの
罪人も楽しとるわ
ーっ!



そ…曾良君…
君…師匠を差し置いて
ずいぶん美味しそうな
もの食べてるねえ…

わ…
私にも
頼んで
くれない?

しかたないですね…

すみませんが
この地べたに転がってる
あそこがずるむけ
おやしにお団子とお茶を
お願いします

あそこって
入れるな！
一気に卑猥に
なるじゃないか！

おまたせ
致しました
あそこがずるむけ
おやしさん

むけては
いますけどずるむけって
ほどではないです！

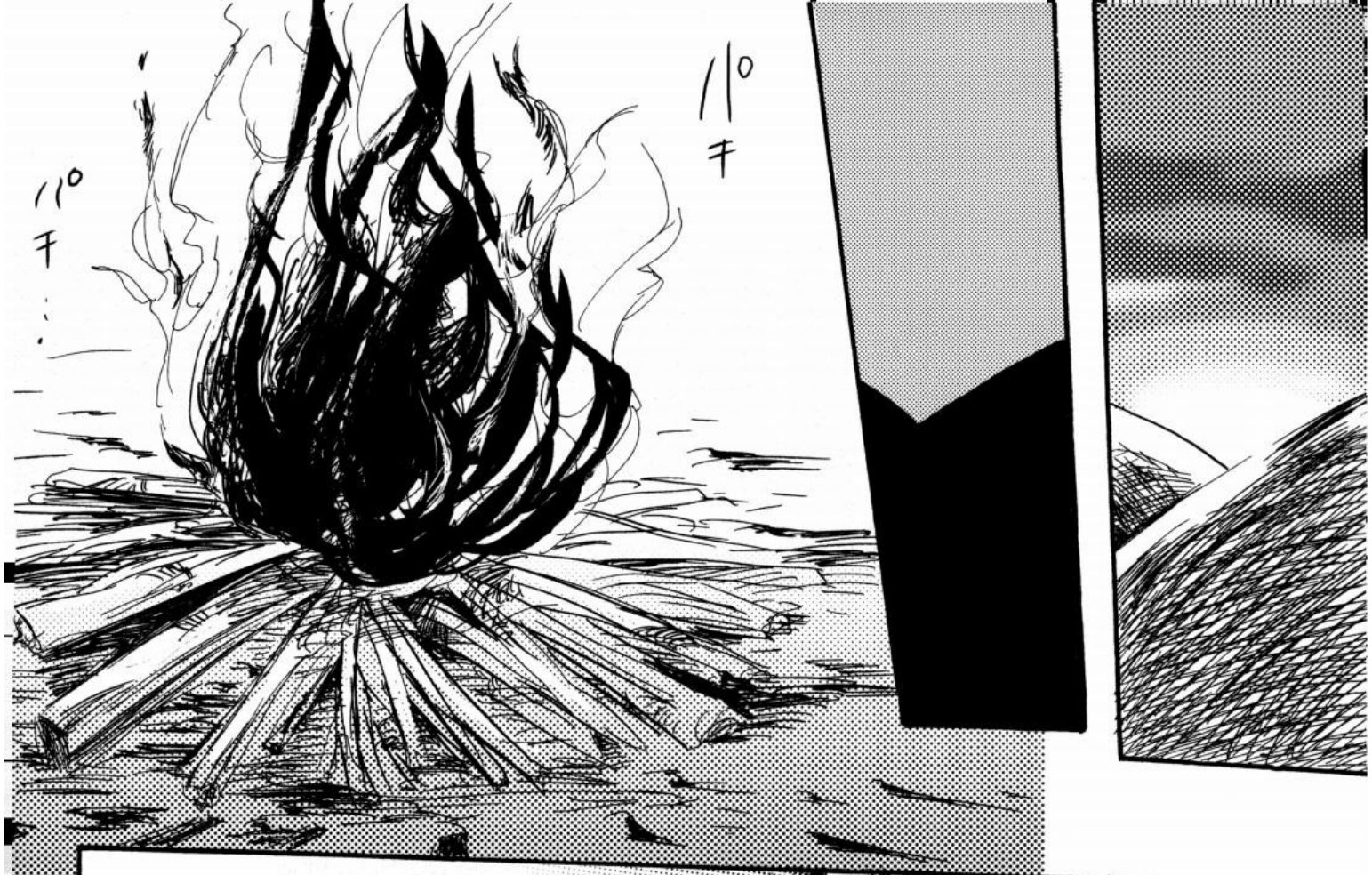
とととと
食べて下さい
急がないと
宿に着く前に
日が暮れて
しまいます

わ、分かったから
この縄解いて
くれない？

それぐらい
一人で外して
下さい。
子供じゃあるまいし

こんなぐるぐる
巻きの状態で一人で
外せたら私奇術師に
なれるよ！





110
千

110
千

芭蕉さんが
もたもたしてる
せいで山道で
野宿するはめに
なりました…

……芭蕉さん



……ごめん
曾良君…

謝るから…



そんな
食いで無
ひよろひよ
じじいなん
誰も食べま
せんよ

…ううう
あやうく
スモーク芭
蕉に
されて美味
しく
頂かれてし
まう
所だつた

ひよろひよ
しとらんよ
ほれこの通
り
ムツチリラ
リアット!



め、目が、目
がああああ
あああ!

木に吊るす
勘弁して
くれないか
な〜?
私スモーク
されちゃう
よ!



ぐう

ううう
お腹すいた…
お腹すいた…
たせこはな



あ!

曾良君
何食べてるのー？
曾良君だけ
ずっ！



さっきの
茶屋で団子
包んでもらって
たんですよ

良いなー！
私も
欲しいー！
ちよーだい！
ちよーだい！
ちよーだい！



カツ

どろどろ

クシッ



！！ 損けな
っ！

まったく…



緊張感の無い
じじいだ…



今がどんだけ
危険な状況か
理解していない…

峠を越えるなら
気をつけ
下さい

あそこはよく
山賊が
出ますから

…山賊…

守りきれぬか…

この人を…



まったく

黙って下さい
芭蕉さん

あああ

…まったく…

嫌な予感によくあたると



いったもんだ



ちっ
何だよ
しけて
やがんな

ろくなもんが
入ってねえ

あああああああ
あああああああ
あああああ！

うっせえ
じじいだな

？
何だこの
気色の悪い
人形は

わーわー！
マーフィー君に
汚い手で触るな！

待ってろ
マーフィー君！
今助け…

頭おかしいのか？
へんてこな人形を
助けるって？
自分の状況
わかってんのかよ！



まったく
ですよ…

え？

芭蕉さん

変な事
ばつか
言わないで
下さい

ギャン！？

ビシッ

後がチカチカ

何だお前
仲間を蹴って
どういう
つもりだ！

スザザ

仲間？

な、なんだとー！
酷いぞ曾良君！

師匠に向かって！

僕がこんな
人形に話しかける
頭のおかしい奴と
仲間なわけ
ないでしょう？

冗談じゃ
ないですよ

師匠って…
お前何か
やってんのか？

ふふふふふふ
聞いて驚け！
私はかの有名な
俳人！
俳聖とまで
言われた

松尾ば

ふ
お
い
！

松尾ばふおい？

頭のおかしい
じじいの
世迷い事ですよ

……うん……

殺して
奪った方が
簡単でしょう

金品目当てならば……
何故僕たちを殺さない
んですか？

あんたみたいなの
べつぴんをよ

おうおう
物騒な事言うねえ
俺たちは盗賊を
生業にしてるが
殺しは極力しねえ
極力な……

それに
殺しちゃったら
もつたいねえだろ

……
やはりか……

こいつ達
金品目当ての
略奪の他に
人買ひも
なりわいに
している…

…ならば…

わかった…
大人しく言う事を
聞くから殺さないで
くれ

おい！
そっちの方は
どうすんだ？

あ？

ほう…
聞き分けの
いいこつて

そうだなあ…

そっちの
兄ちゃんは
十分にいけそうだが
じじいは売れねえ
からなあ…

生きて返して
役場に行かれても
めんどくせえし…
殺つちまつか？

うう



離せ

あ?

離せ

なんだあ?

その人を
離せ

何だっついでにきなりっ

そんな頭のおかしい
じいさん一人
ほおつておいても
どうもなりませんよ

……は……はは
そうだな

こんなじいし斬つて
刀が血のりで
にぶくなるのも
嫌だしな

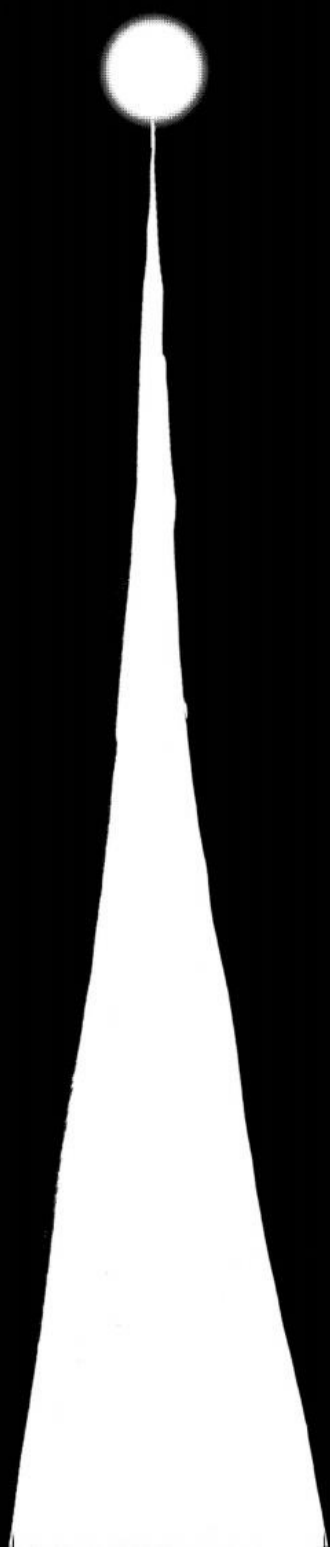
さあ
行くぞ
大人しく
付いて来いよ



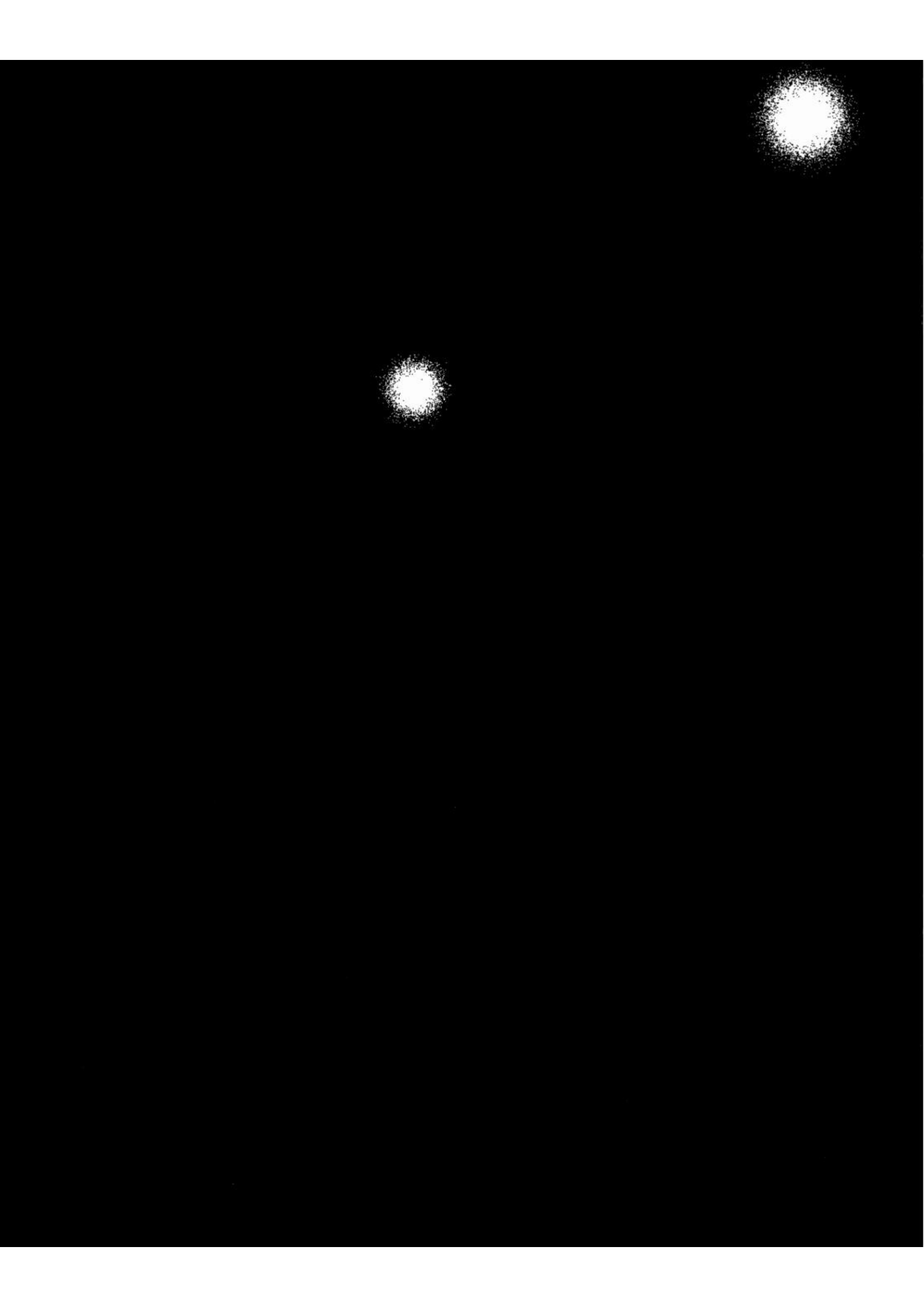
白黒の虚無の世界

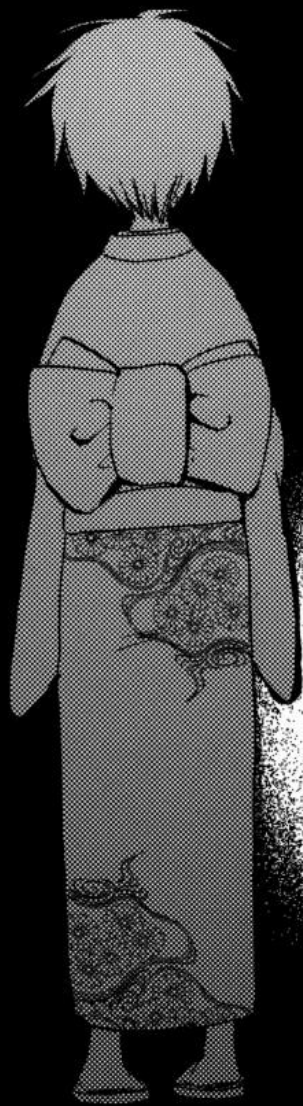
そこに道が出来た

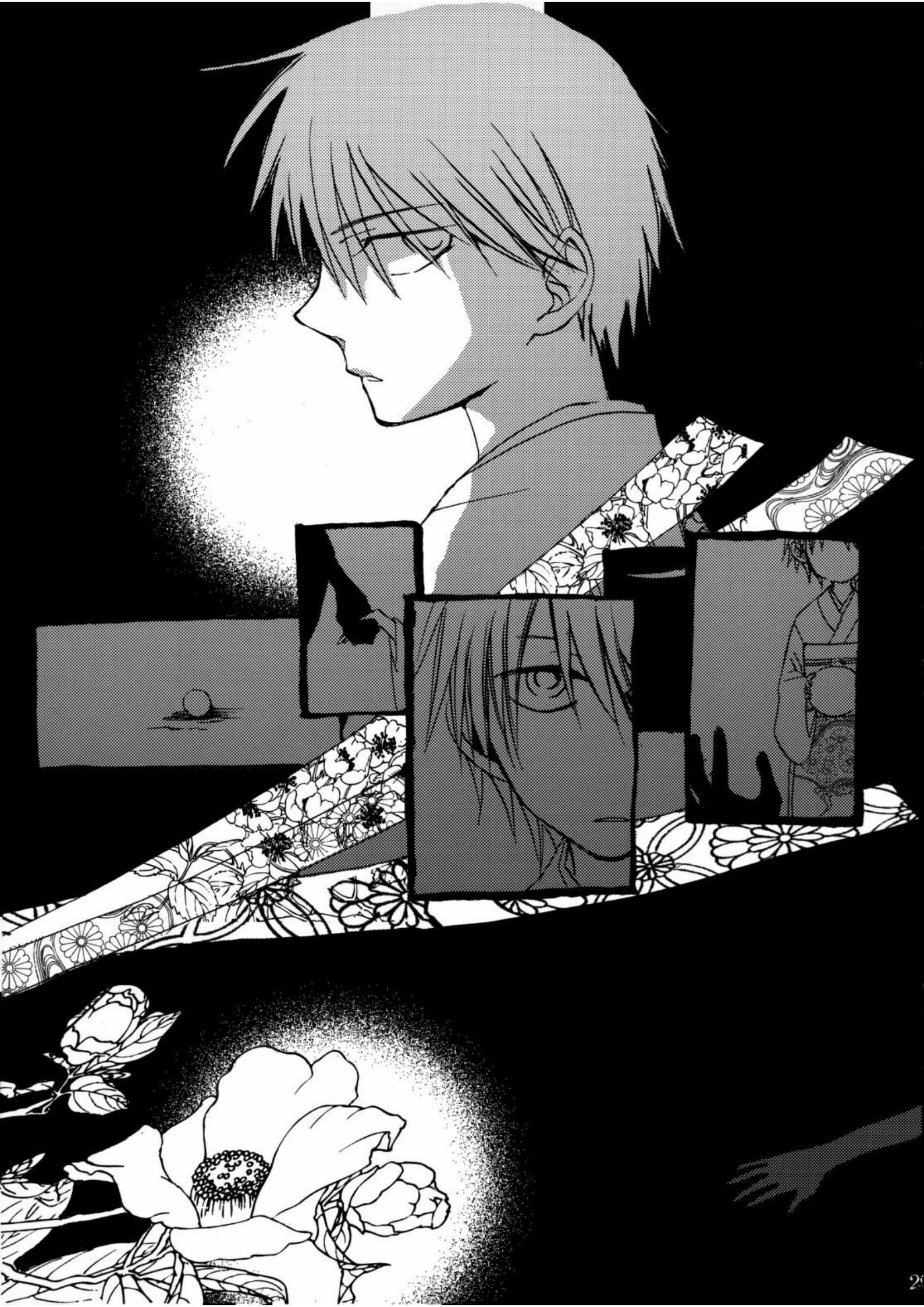
松尾芭蕉



あなたという指針を見つけた時







…ねえ
あんた…



どうにか
なんないのかい
あの子

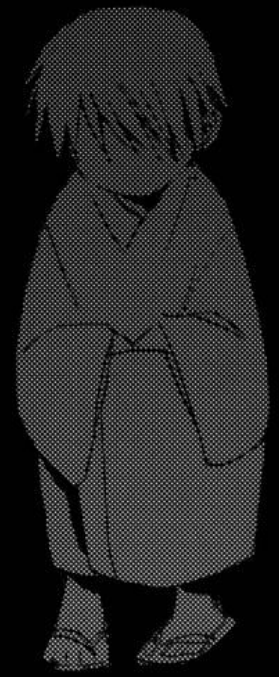
両親無くして
世話してた伯母様も
無くなって…
他に引き取り手が
無いから世間体で
引き取ったけど…

子供達と遊んでたと
思ったらいきなり
他の子達に手を
上げるんだよ

表情も能面が貼り付いた
みたいに変わらないし…

気味が悪いよ…









俳句道





おい兄ちゃん…
これから
売られるってのに
ずい分と落ち着いて
んなあ…

どこに売られるか
分かってねえ
わけでも
あるめえ



……
なんだあ…
その態度は…っ

おい止めとけ…
お前酔ってんな
ただの強がりだ

口が聞けねえ
わけじやねえんだ
何か言ってみろよ

…そいつは

無理な
話だ

持ち合わせて

お前達のような
奴にくれてやる
言葉など

いないんでな



あ？

止めとけて
お前酒入ると
止まらなく
なんたら

今さっきの
じじいといひ…
なめやがって

つたど？

今の自分の
置かれてる
立場分かってねえな



チッ





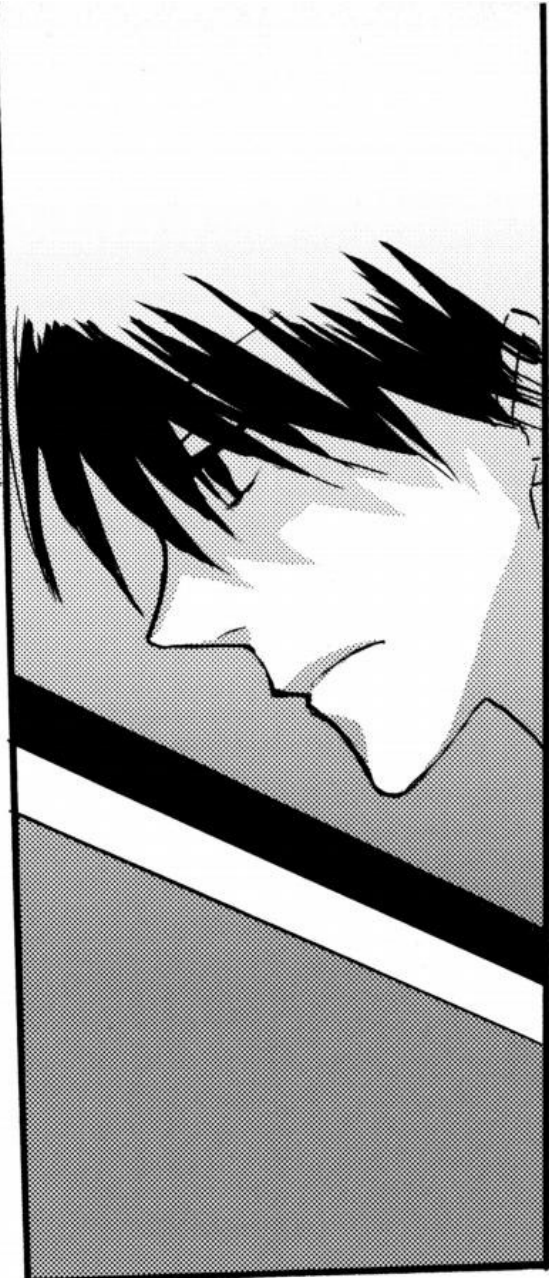
お前の
命は俺たちが
にぎつてんだぜ

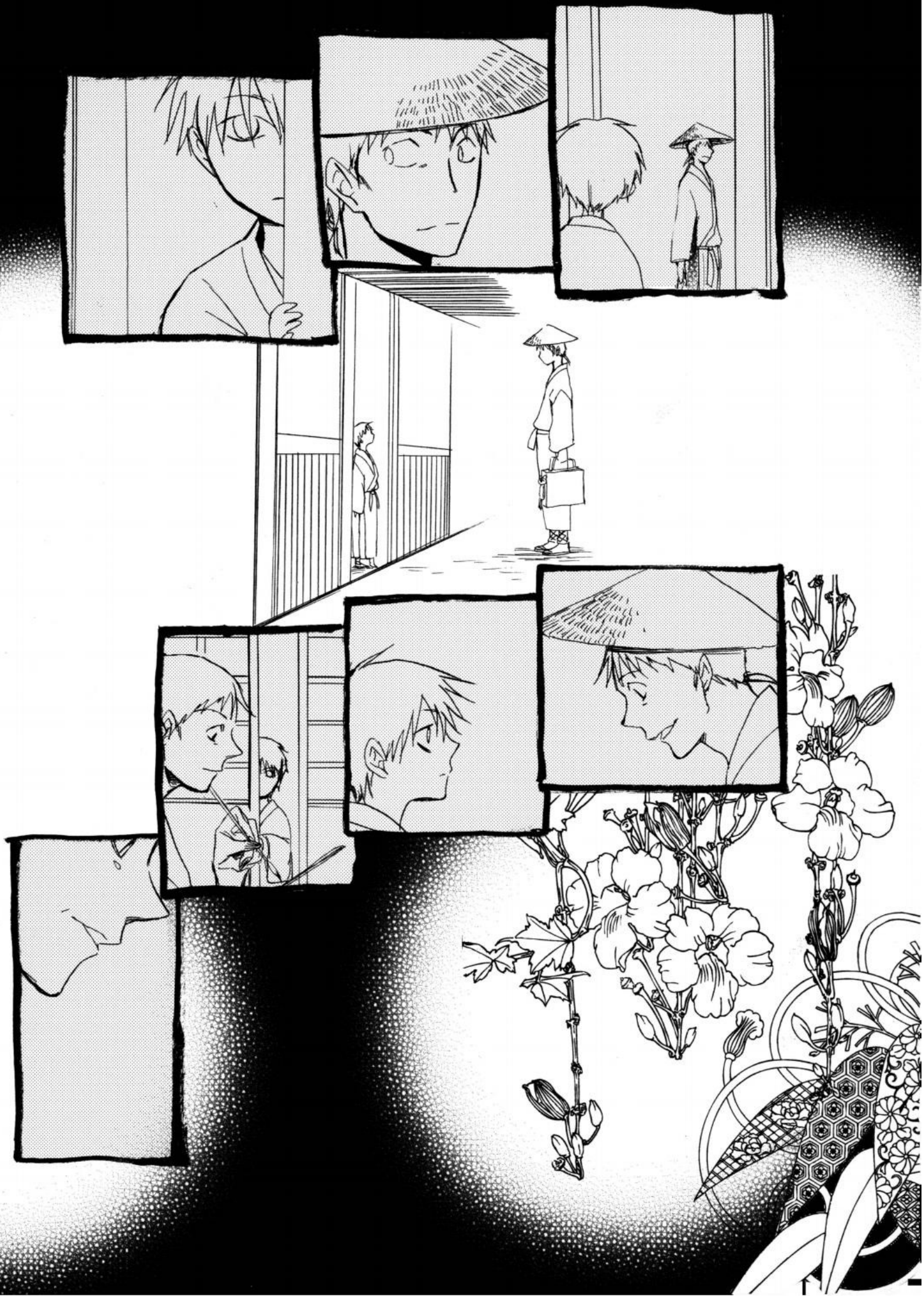


……たく

刀突きつけられて
眉一つ動かさねえたあ
たいしたキモだ……

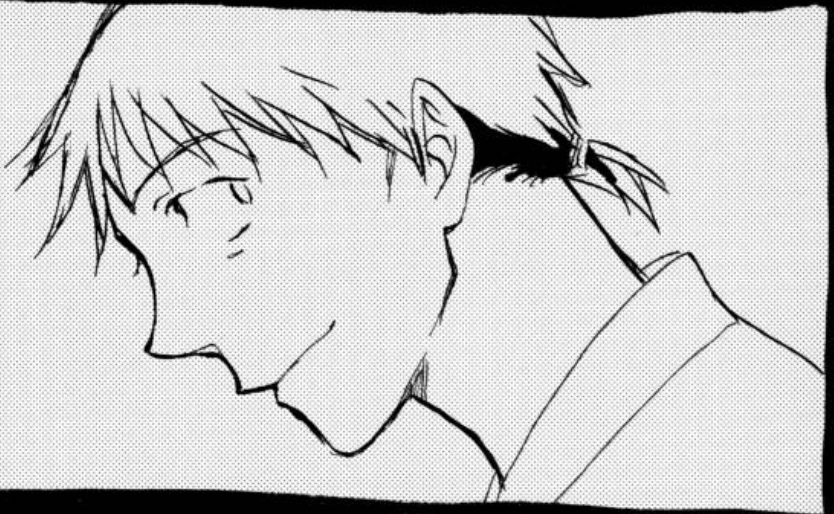
怖いものは
何もねえつか？







彼の句を
初めて
聞いたとき



何も感じない
心の中に

鮮やかに響いた彼の言葉



風の息吹

緑のさなみ

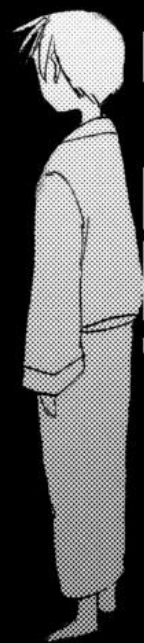
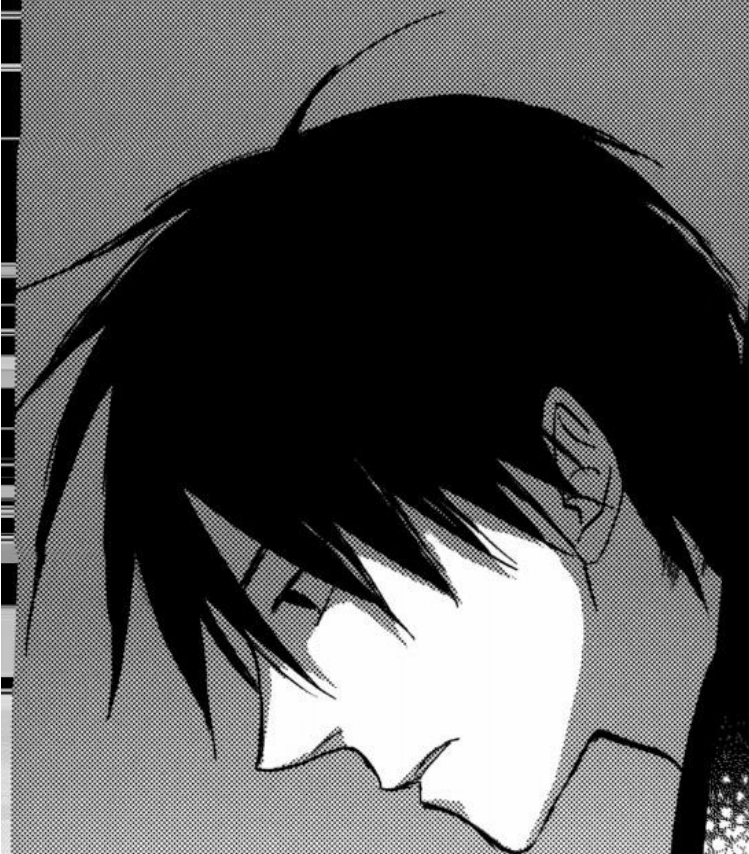
土の匂い

彼の言葉が

僕の世界を...



道をつくった



僕の畏怖するもの



それは



あなたが僕の前から居なくなる事



あなたという

道を失うと

50120





声上げさせて
やるぜ

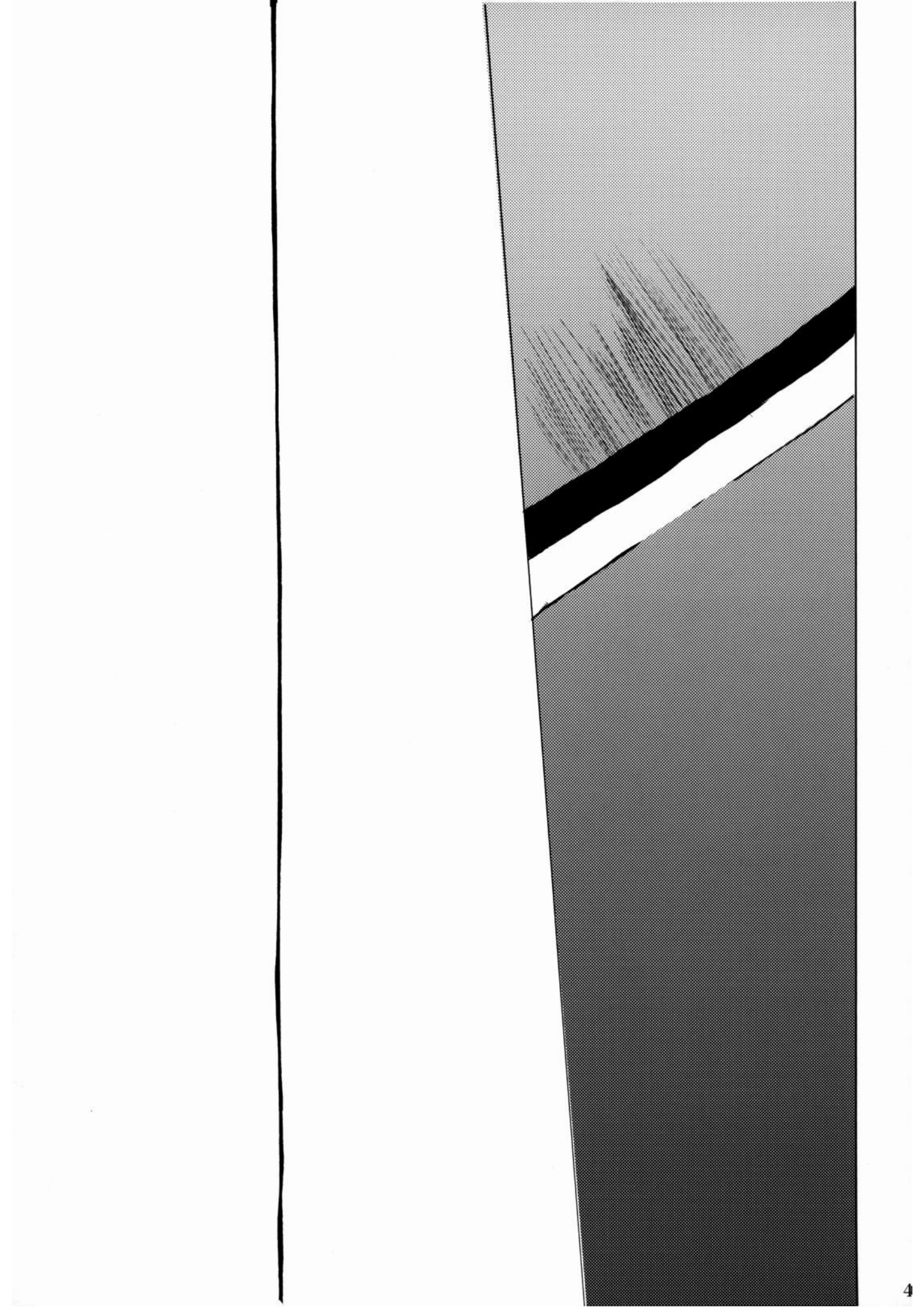
だったら

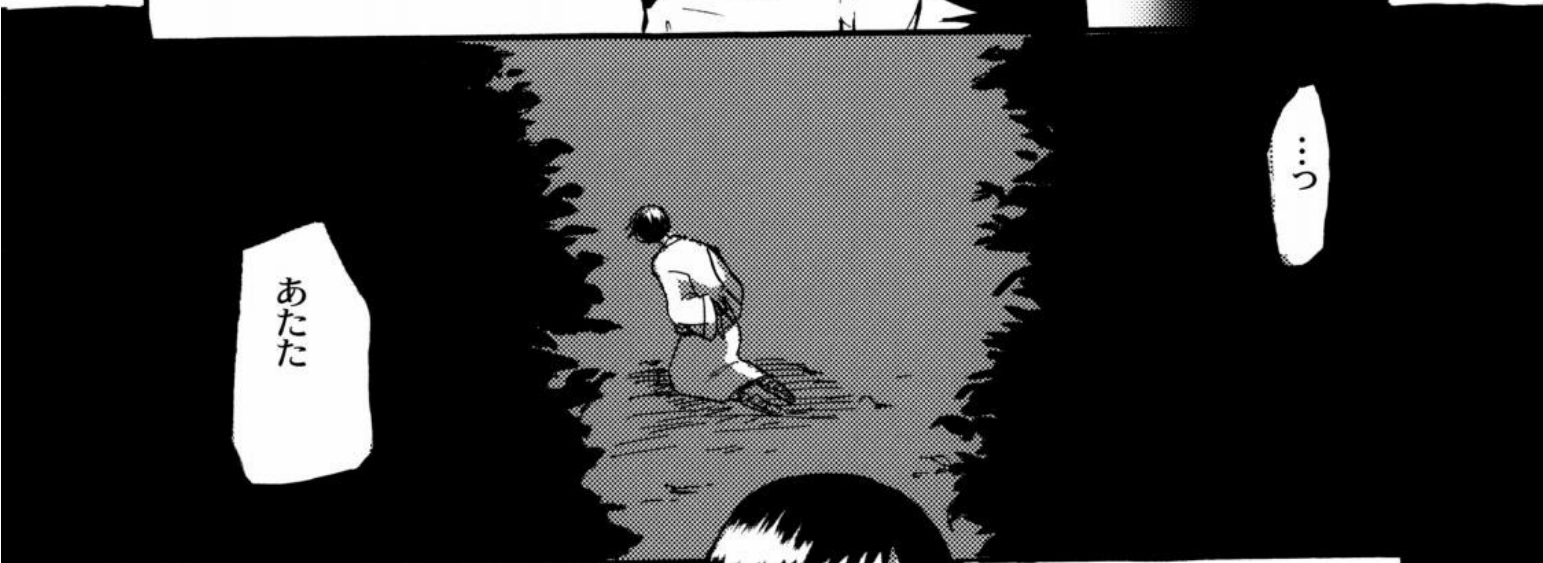
なめやがって…



それ以外に無い







あなた

...



...
...
何処...?

...
はれ?

なんで私
ぶつたおれて...

ズキッ

いたあああつ!

口に中切れてる
ほつぺたいいたあー
ーっ!

……つて

?

なんで...

ふ
お
し
!

ズキッ

思い出した

この鬼でなし！
曾良野郎っ！

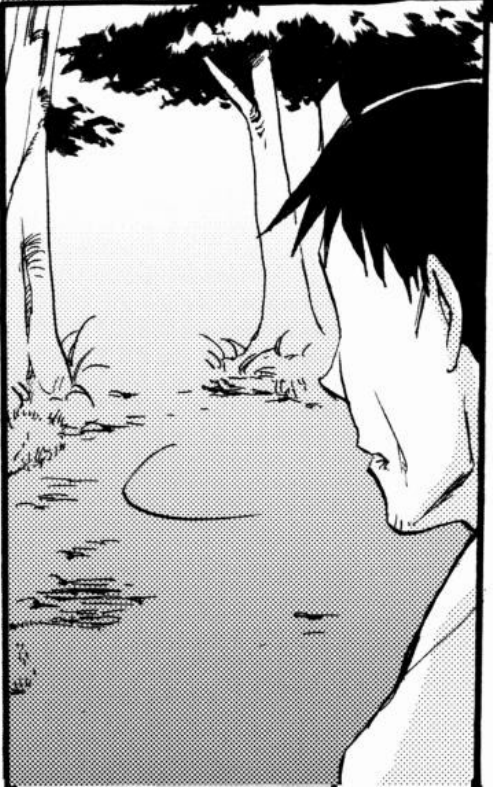
よくも師匠の顔面を
全力で蹴ったなー！
そこになおれ！改良型
ムッチリリアットを
くらわせて



曾良君？

あれ？

曾良君ー？
曾良くんー！



鬼弟子
曾良君ーっ！
返事しろー！



これは



置いて



いかれた？



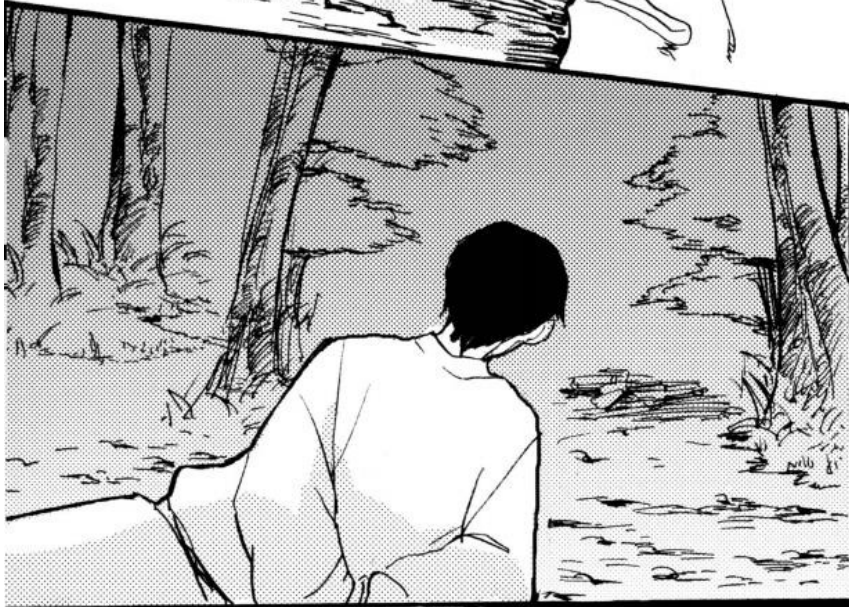
うわーっ！
曾良君のばか
ーっ！
置いて行く事
ないじゃないかっ！

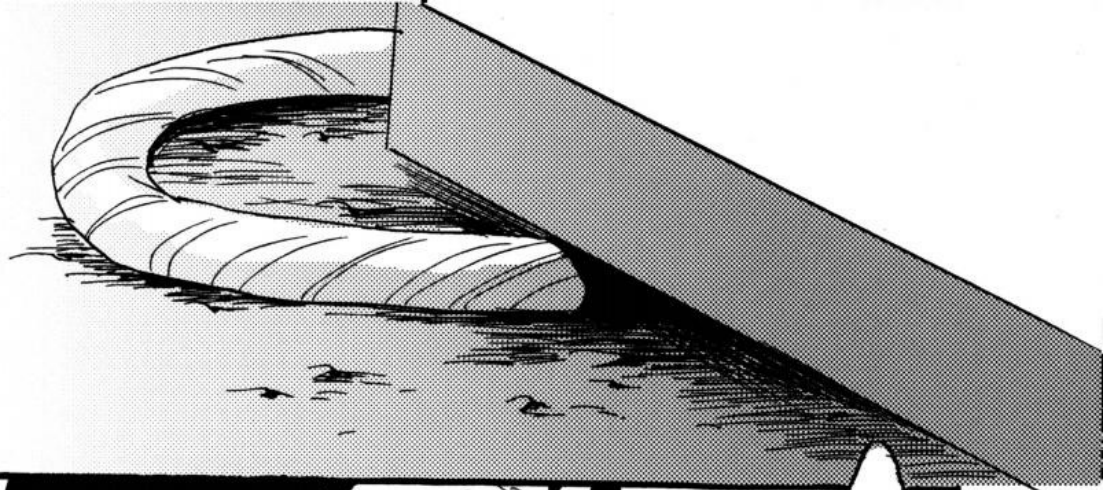
それもこんな
山の中につ！
怖すぎるっ！



置き去りにするこ
するにしても縄
外していけーっ！

今さっきみたいに
変な奴らに
襲われたらどうすん…





冗談じゃ
ないですよ

僕がこんな
人形に話しかける
頭のおかしな奴と

仲間なわけないでしょうっ

……

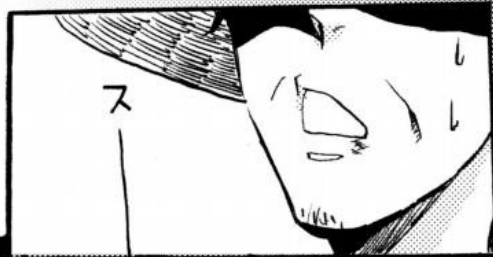
……曾……

曾良く……っ

どわっ！

っ……ぞっ！

縄でくぐられ
てるから上手く
走れな……



月謝払わんかい
ボケエ!

曾良君の
鬼弟子ーっ!

よろ...



パン
買ってこんかい
ボケエ!

ケツ
蹴り上げるぞ
コラア!

お前
ぶっ飛ばすぞ
コラア!

……お願い

お願い

……っお願い!

返事して……っ

曾良君……っ!

お願いだから!

何故……河合なのですか?

他に
あなたと
道を共にしたい
という者は
大勢居るといふのに！



うん

でももう決めたんだ

曾良君が
良いつていつたら
同行者に
なつてもらおうつて



……河合は……

門下の中では
一番歳若く
旅の経験も少ない

それに……
素行や言動にも
問題が！

師匠であるあなたに
手を上げるなど！



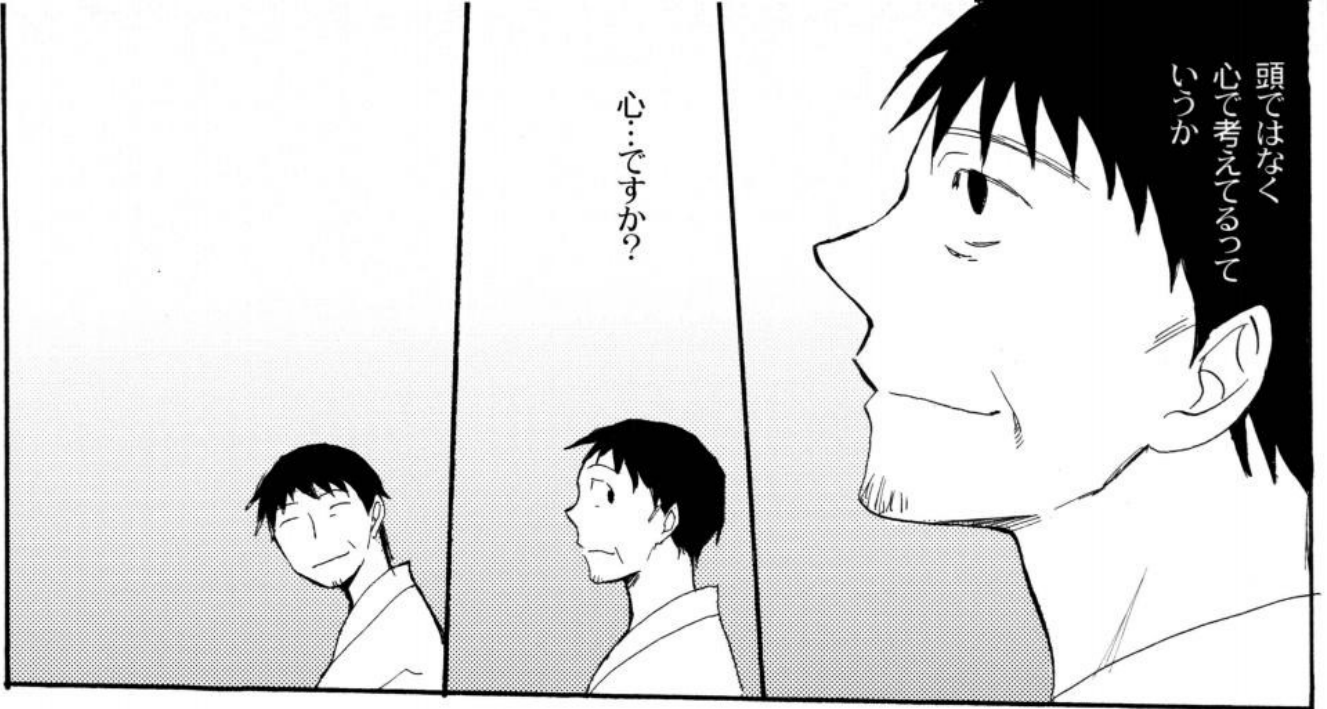
ねえ君は

句を考えて
いるとき
何を考えている？

考えている時ですか？
……それは……
良い句を詠むもつと……

ああ……
ごめん
そういう事じゃ
なくてね





頭ではなく
心で考えてるって
いつか

心…ですか？

曾良君の句は
まだ上手いとはいえないよ

でもね

私彼が自分の
心からたぐり
寄せてるように選ぶ
言葉がとても
好きなんだ

たどたどしいながらも

繊細でとても

綺麗な言葉



彼の句を聞いてると
分かるんだ



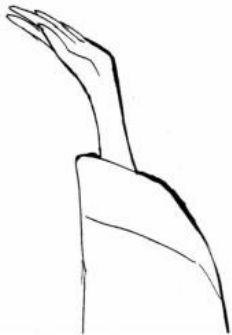
いつもの曾良君は
つつけんとんで
暴力的で表情も
あまり変わらないから
何を考えているか
分からない…



でもそれは…

きつと

しかたない事なんだろっ



私が
曾良君にふざけて
ちよつかいかけて
初めてぶたれた時

曾良君の方が驚いた
様な顔をしていた



しかられた
子供みたいに

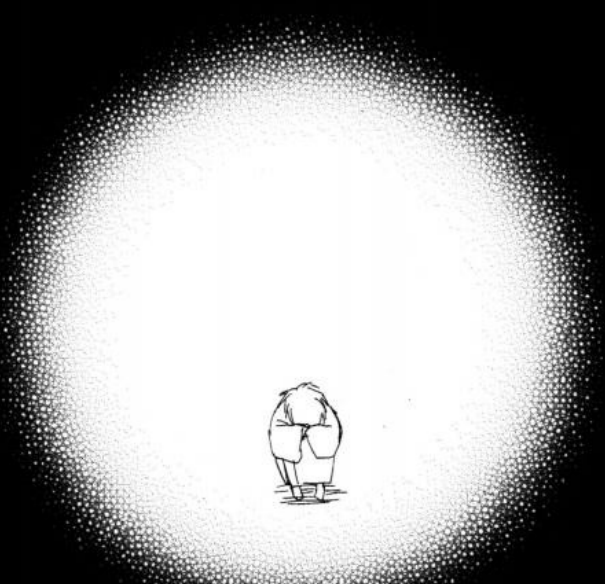


その時

ああこの子は

自分の感情を
うまく操れない子
何だなんて

自分の感情が
操れなくて
相手に伝えたい
事があっても
一番簡単な
暴力という方法を
使ってしまう



…なんですか

芭蕉さん

あ…

…あのね
曾良君…
お願いがあるんだ…

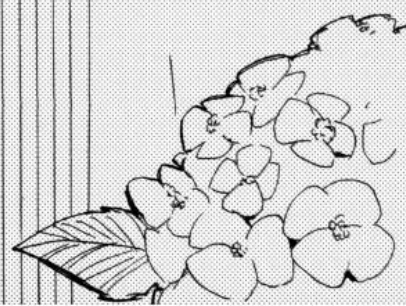
人をじろじろと…

大事な話が
あるから：

明日私の
家に来て
くれない？

曾良く…っ

この旅に君を
誘うの
ぎりぎりまで
迷ってた



危険な旅…
生きて帰れないかも
しれない旅

弟子にしてくれと
ある日君が訪ねてきた

でも…

名前と簡単な経歴しか
言わなかったけど

そんな危険な旅に
君を同行させて
いいんだろうかと

君が良かった

君の事が知りたい

そう思う様になるには
時間はかからなかった

曾良君…



君が良かった

君と一緒が良かった

君といろんなもの見て
思いつく言葉を
紡ぎながら
俳句を詠みたかった

君の言葉を聞いて
いたかった

この旅で…

死ぬ覚悟で来た
この旅で…

もし私が死んだら

君に看取つて欲しいと思つたから



駄目だよ

駄目だよ
曾良君

私より先に
死んじやだめだよ！





よいせ



^^



そのすかしたツラ
いつまでもつか
見物だぜ

顔は上玉だが
身体の方は
どうだかな

確かめてやるよ



まあこの顔に身体だ

男の一人や二人
くわえこんでる
だろうがな



ち

まただんまりか



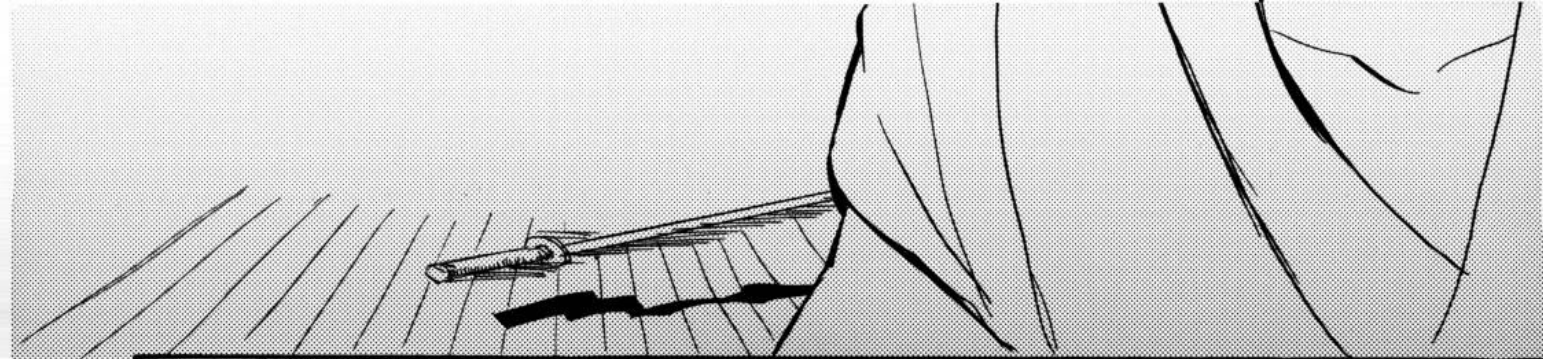
おい
やめとけよ売りものに
手えついたら
値が下がるぜ

うっせえな
黙ってろ

……うたく
悪ノリしやがって

どうせ
初もんじゃねえんだ

別にここで俺が
やったとしても
分かりやしねえよ



どうせ
あれだろ

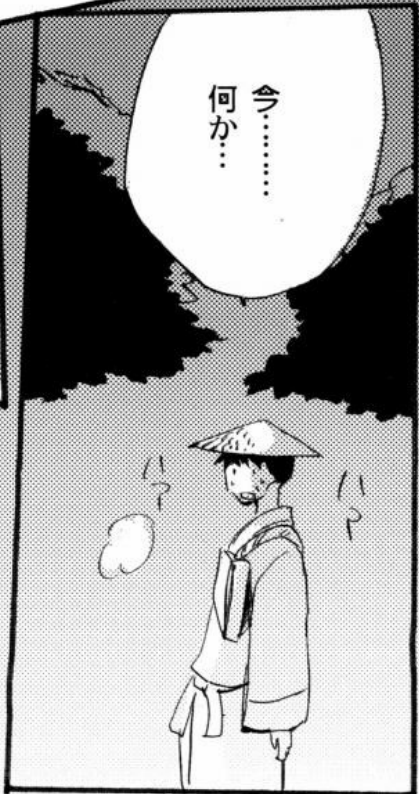
お前と一緒にいた
じじいの稚児さん
でもやってたんだろ？

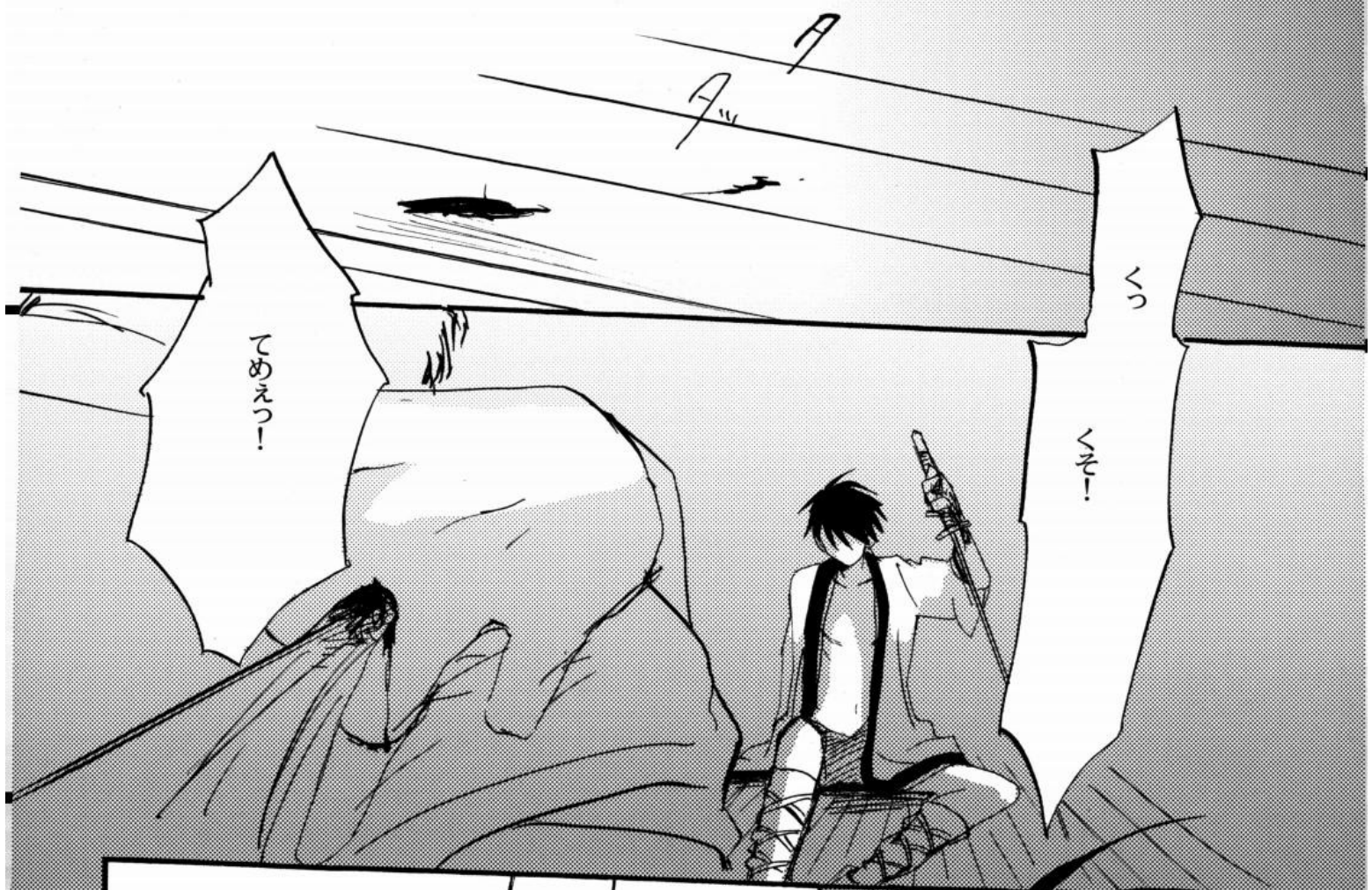


男一人旅

たまるかなあ

まあ…違っても
きつとあのじいさんも
お前さんの事
やましい目で
見てたに違いねえ





てめえっ！

くっ
くっ！



てめえ
どこに隠してやがった

それに
縛ってた
縄は…

たあ



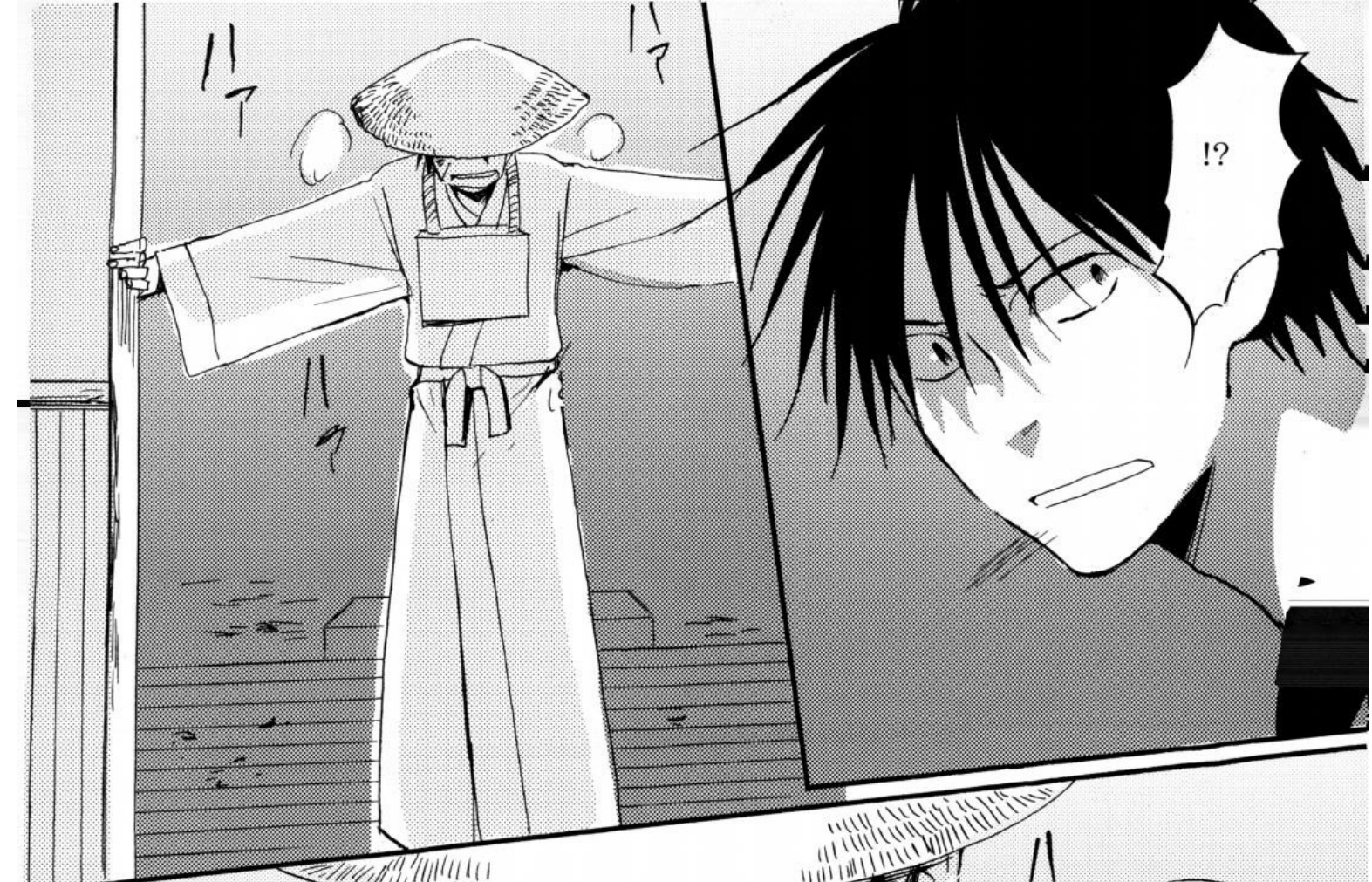
もう喋るな
下衆が

ハッ
カキッ

なめ
やがッ

ブ
殺
け
ろ
な

海
自
曝
!



!?



曾良君

……はあ
……はあ……そ



見つけたあ



キ
ッ



芭蕉さん

逃げますよ



ハア

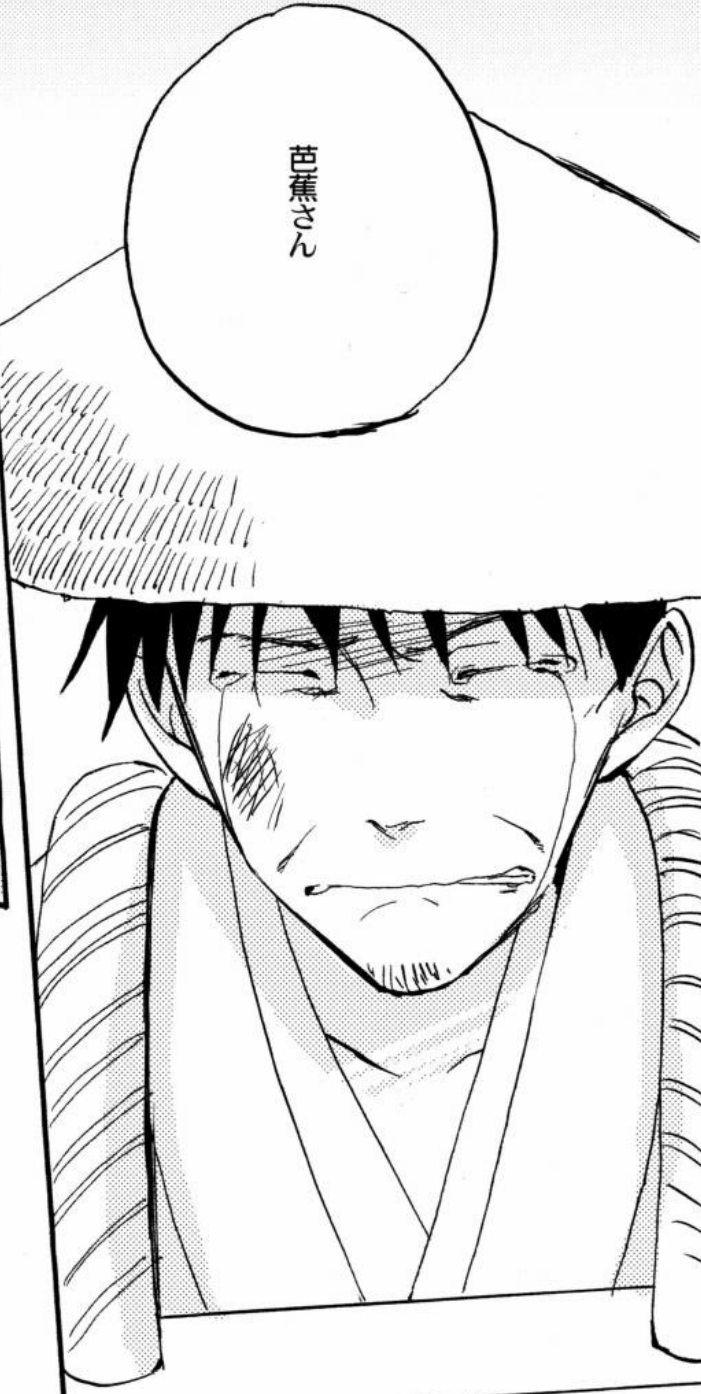
ハア

ハア



……ごめん……

ごめん曾良君



田舎やん

ごめん……



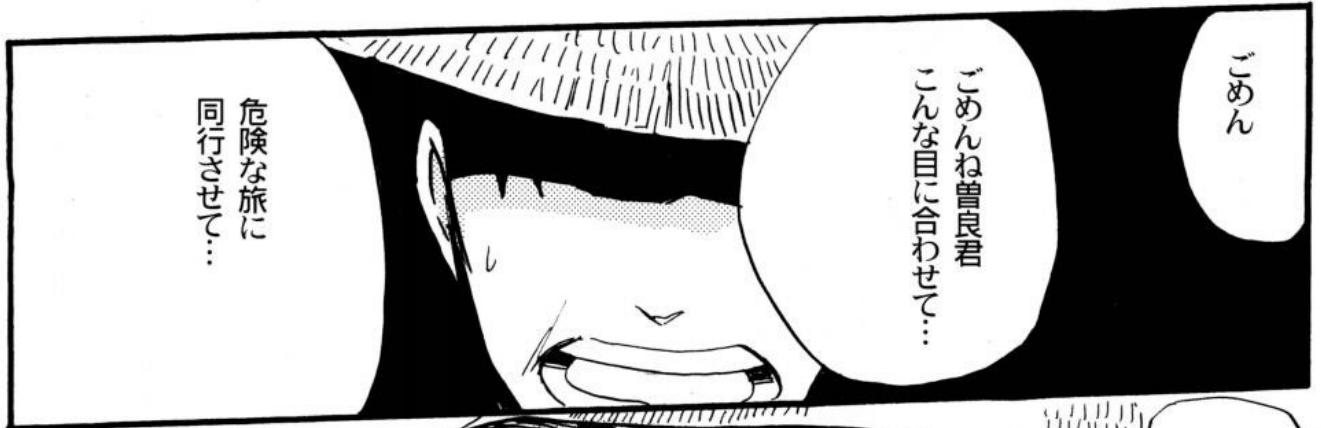
私が旅に
誘わなければ



君をこんな目に...っ

貴方の道を共に歩いてゆける

それが僕の
ただ一つの願い



何早とちり
してるんですか
芭蕉さん

僕は
何もされて
いません

変な想像しないで
下さい

曾良君、君は…

…たいした
事じゃない…

…でも…
またこんな事が
おこらないとは
言い切れない

ほつ本当に!?

…え?

こんな事…
たいした
事じゃない…



再び道を
失う恐怖に
比べれば

貴方と共に歩めない



あなたという道を
失う事に
比べれば

人は心に道を持つ

それ故に

時に迷い

時に探り

時に欲する

共に歩む片割れ

道を共にする魂の片割れを

佛白道





御向

下道



俳句ノ道

上下再録本

ここまで読んで下さって有り難うございました。
芭蕉さんに依存している曾良君が大好きです。(どす恋)
知らぬ間に曾良君に老いらくの恋を抱いている
芭蕉さんも大好きです。(どんと恋)

2008年9月28日

発行元 無糖

発行者 飴

<http://mutou607.sakura.ne.jp/>

hyr@mutou607.sakura.ne.jp

